

西部水再生センターにおける工事事故の今後の対応について

「水再生センター等安全対策検討委員会」の調査報告を踏まえ、全ての水再生センターの安全対策を進めております。

当該事故については、構造上の瑕疵など市に責任があるとして損害賠償請求訴訟が提起されており、昭和 56 年建設当時の施工状況などについて、今後も引き続き、内部調査や請負業者の事情聴取などの調査を進めてまいります。

1 事故の概要

昨年 1 月 15 日、西部水再生センターの反応タンク散気装置設備工事において、作業員が反応タンク上部に設置した覆蓋とともに、約 10メートル下へ転落し、1 名が死亡、1 名が重傷。

2 事故後の経緯

平成 19 年	1 月 15 日	事故発生
	2 月 13 日	緊急安全対策工事 (水再生センターの管理動線の確保)
	2 月 15 日	環境創造・資源循環委員会へ工事事故の報告
	3 月 22 日	水再生センター等安全対策検討委員会 (第 1 回)
	8 月 22 日	委員会報告書提出 (計 4 回開催後) 【記者発表】(常任委員会への資料配布)
10 月	2 日	損害賠償請求訴状提出 原告：御遺族、負傷された方 被告：横浜市、大成建設株式会社
10 月	31 日	覆蓋更新計画策定公表 【記者発表】(常任委員会への資料配布)
11 月	26 日	反応タンク散気装置設備工事再開に向けた準備工事 (覆蓋の受枠部の全面切除等)
平成 20 年	1 月 23 日	建設当時の工事監督職員から事情聴取

3 水再生センター等安全対策検討委員会からの報告

(1) 設置目的

当該事故の原因や全水再生センターにおけるコンクリート構造物（開口部を中心とする）の安全性について、学識経験者等により客観的かつ論理的な検証を行い、今後の安全対策を立案することを目的として設置したものです。

(2) 委員構成

委員長 田中和博 日本大学 理工学部 土木工学科教授
入江正明 東京大学大学院 コンクリート研究室研究員
中沢 均 日本下水道事業団 品質管理センター次長

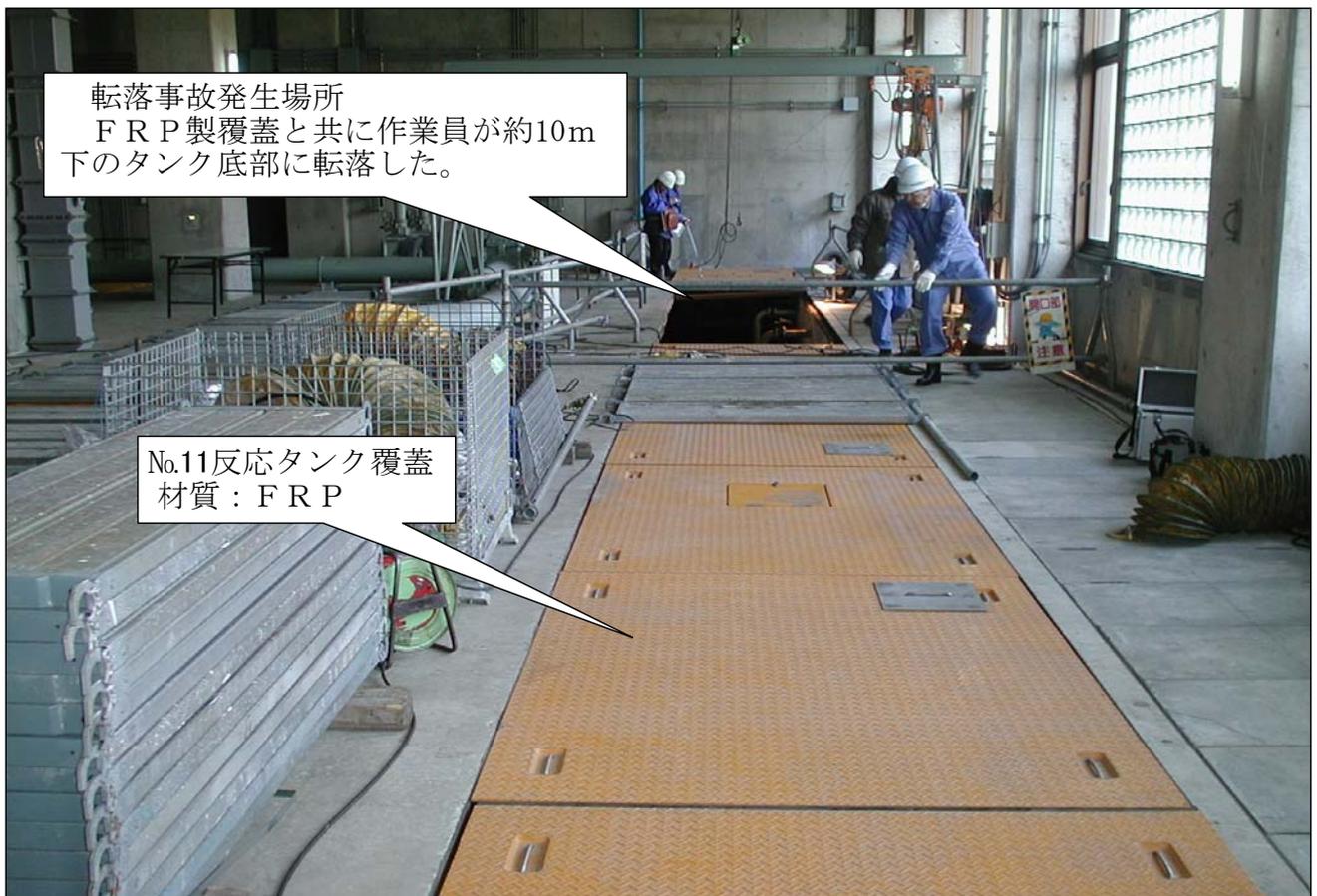
(3) 報告内容【要旨】

- ① コンクリートの中性化促進、アンカー筋等の腐食・膨張、コンクリートのひび割れなどが複合的に関連し、劣化を助長したおそれがあると考えられる。
- ② 実際の現象では、複数の要因の累積・重複、また、時間の経過とともに段階的・突発的に要因が作用するおそれがあり、今後は、複数の要因に対してコンクリートの品質を保持できる安全対策が求められる。
- ③ 供用年数が相当経過している「類似の供用環境にある蓋受枠部の構造に着目した安全対策の段階的整備」を行う。安全対策は、「当面の対策」と「中長期的な対策」に分けて実施していくことが有効と考えられる。

4 今後の対応について

これまで事故の再発防止を最優先に、「当面の対策」として全水再生センターの管理動線を確保するなどの緊急安全対策を実施してきましたが、今後は、「中長期的な対策」として昨年10月に取りまとめた覆蓋の更新計画に基づき、平成20年度から5か年を目途に安全対策を進めます。

また、昭和56年建設当時の施工状況について、引き続き内部調査や請負業者から事情を聴くなど、調査を進めてまいります。



工事名称：西部水再生センターNo.11反応タンク散気装置設備工事

水再生センター等安全対策検討委員会報告書の概要

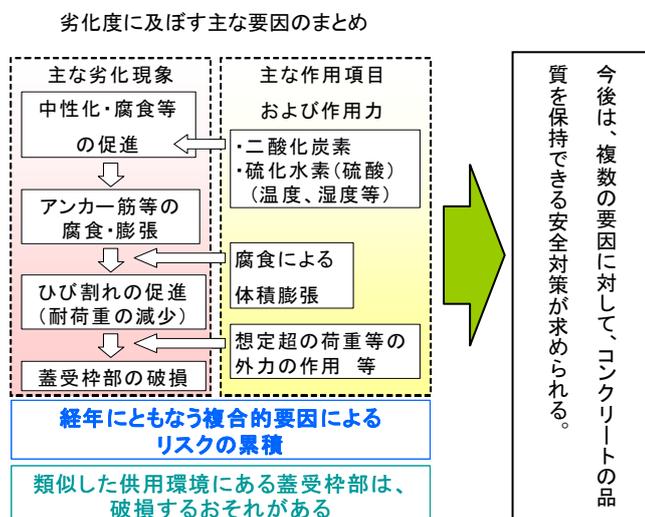
1. 外部委員会報告書の要旨

①通常、はめこみ式の蓋受枠部は、鉄筋かぶりのコンクリート部分であるが、リスクが潜んでいることも考慮して、長期にわたりコンクリートの品質を保持できる安全対策を検討する必要がある。

図面等の関連資料による調査、目視調査、および工学的な検証等を行ったが、各要因が複合的に関連し、劣化を助長したおそれがあると考えられる。

②実際の現象では、複数の要因が累積・重複して起こること、また、時間の経過とともに段階的または突発的に要因が作用するおそれがあることから、今後は、複数の要因に対してコンクリートの品質を保持できる安全対策が求められる。

③以上より、供用年数が相当経過している「類似の供用環境にある蓋受枠部の構造に着目した安全対策の段階的整備」を行う。



2. 今後の安全対策における方針 ～段階的安全対策の実施～

安全対策は、「当面の対策」、「中長期的な対策」に分けて計画的、効率的に実施する。

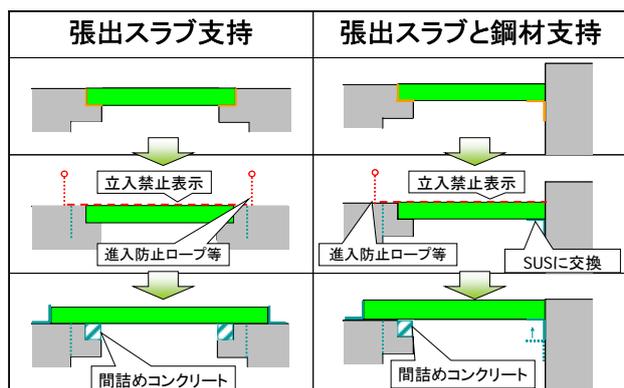
①当面の対策

供用年数が長く、劣化度の大きい施設から迅速に対策を実施する。

②中長期的な対策

各施設の標準耐用年数の経過時期と点検結果を評価して、順次、更新に合わせた着実な対策を実施する。また、PDCAサイクルとして、定期的な点検を行う。

○既設構造物 ※ 施工中(施行中)のものを含む
 安全対策手法の実施例



○新設構造物

あとのせ式を基本とし、蓋本体および蓋受枠部の荷重を、壁や梁などの部材で受ける。

